

◆ 今週のコメント

- 夏かせ(手足口病, 咽頭結膜熱, ヘルパンギーナ)の各定点当たり報告数は, ピーク時(第29週及び第32週)から順調に減少しています。
- 百日咳の報告が3例(0～5箇月 2例, 3歳 1例)あり, 第32週から4週連続で報告されています。本年の累積報告数は42例です。平成12年から平成19年の同時期までの累積報告数(9例～28例)と比べ, 本年は最も多くなっています。

◆ 今週のトピックス:〈腸管出血性大腸菌感染症〉

- 今週は, 7例報告(第35週 6例及び第36週 1例)があります。全国では, 今週(262例)が最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- 二類: 結核 10例(喀痰塗抹陽性 5例, 無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 248例(喀痰塗抹陽性 81例, 無症状病原体保有者 22例)】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症(O103 VT1VT2, O157 VT2, O157 VT1VT2) 7例【1月以降の累積報告数 71例】
- 五類: 梅毒(晩期顕症梅毒) 1例【1月以降の累積報告数 3例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.95	80
	② 手足口病	0.83	34
	③ ヘルパンギーナ	0.63	26
	④ 突発性発しん	0.51	21
	⑤ 水痘	0.27	11
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

病原体情報

(検体名は, 紙面の都合上, 咽頭ぬぐい液をNP, 糞便をFC, 髄液をSF, 尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
コクサッキーウイルス A4型(2)	かぜ症候群(第30週)	NP	コクサッキーウイルス B4型(2)	かぜ症候群(第29週)	NP
	かぜ症候群(第30週)	NP		かぜ症候群(第30週)	NP
エコーウイルス3型(1)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (第29週)	NP			

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈腸管出血性大腸菌感染症〉

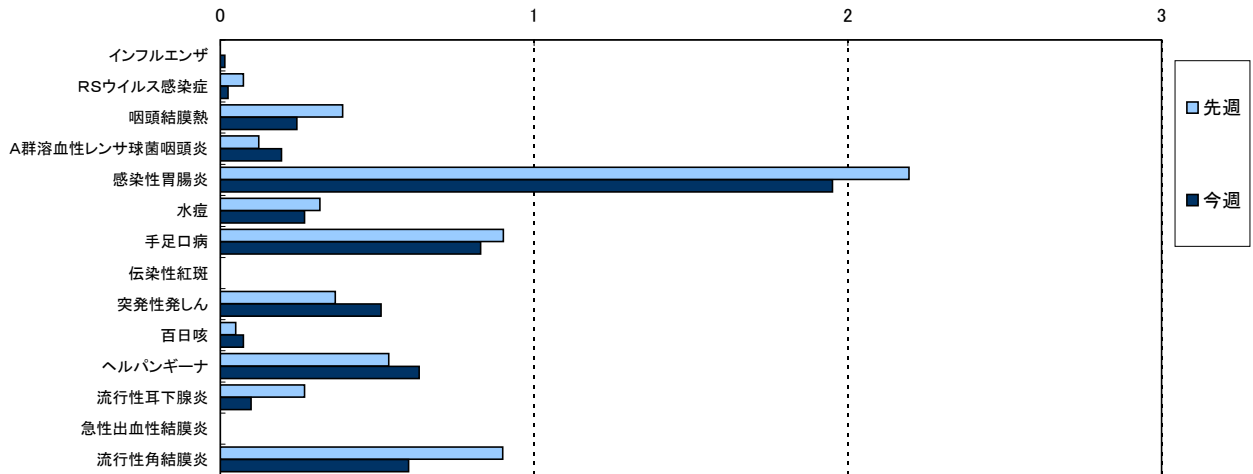
(注) 京都市のデータは, 平成20年9月5日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。

また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在の保健所での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

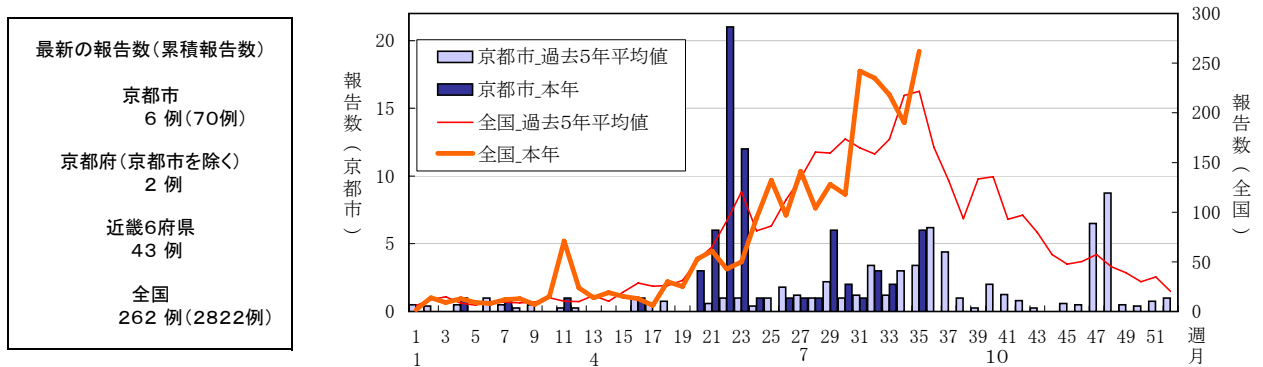
病原体情報は, 病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第35週)と先週(第34週)の定点当たり報告数の比較

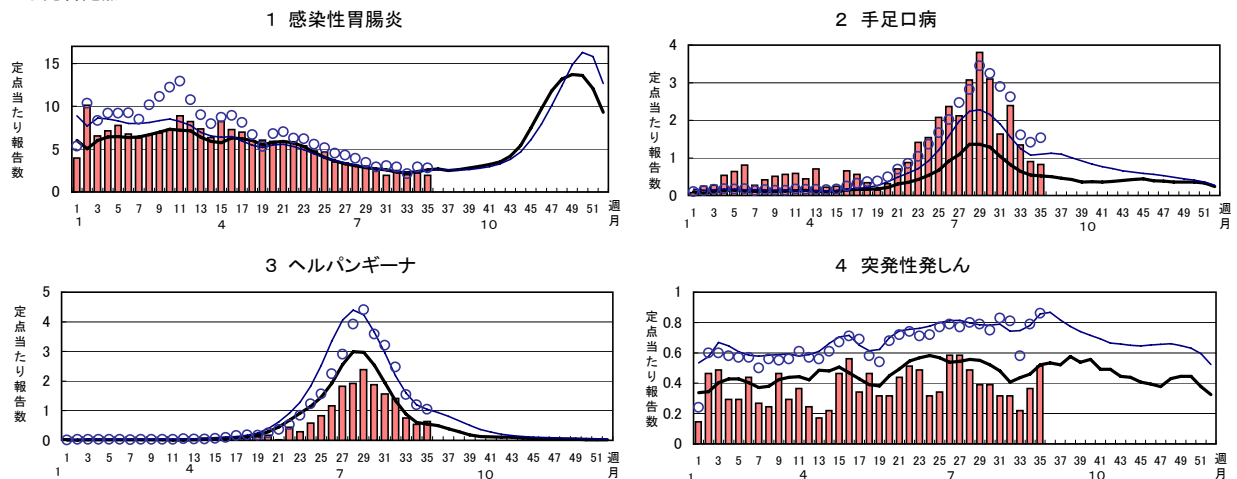


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

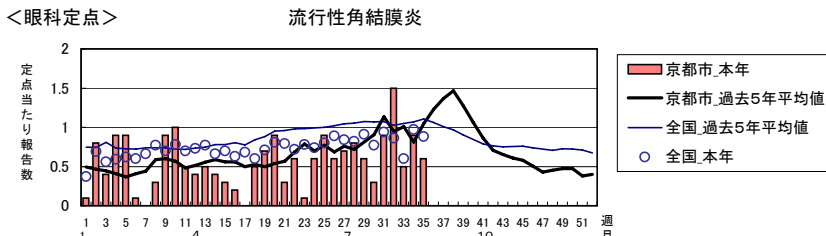


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



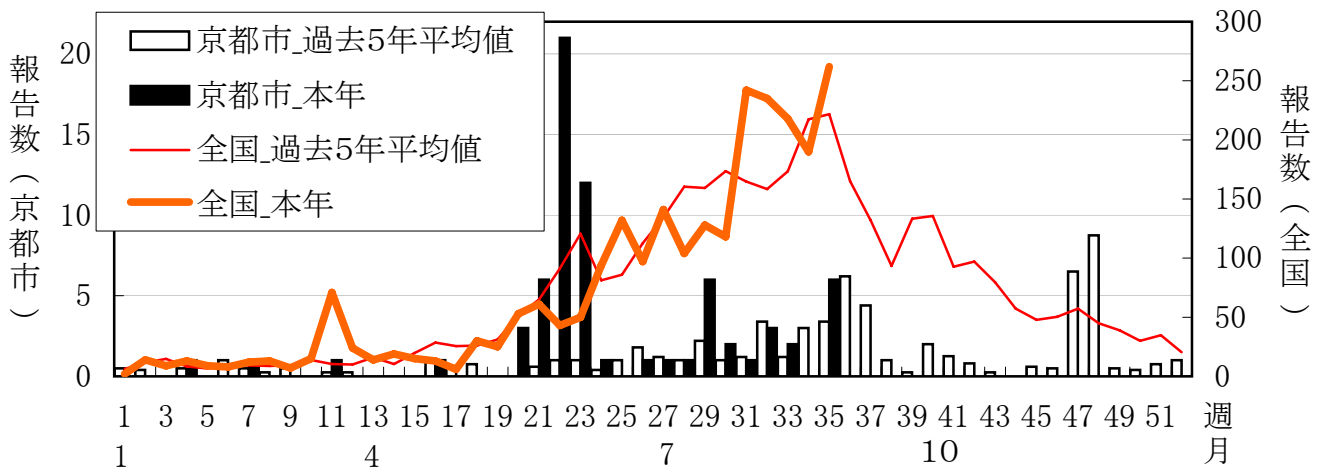
今週(第35週)のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

今週は、7例報告(第35週 6例及び第36週 1例)があります。全国では、今週(262例)が最も多くなっています。

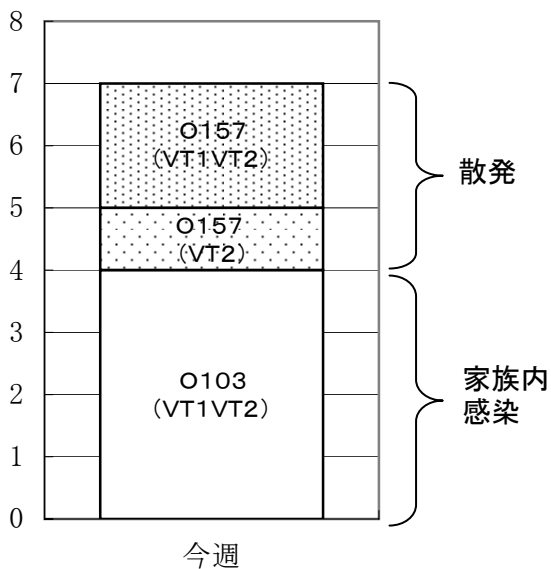
今週の報告数を血清別にみると、O103(VT1VT2)が4例と最も多く、O157(VT1VT2)が2例、O157(VT2)が1例報告されています。また、感染状況をみると、O103(VT1VT2)の4例は家族内感染、O157(VT1VT2)及びO157(VT2)は散発となっています。10歳階級別にみると、10歳代 3例、20歳代 2例、0～9歳及び40歳代 各1例となっています。

本年の血清型別感染状況の累積報告数をみると、O26が最も多く、次いでO157、O103となっています。

京都市及び全国の報告数の推移(平成20年第1週～第35週)



今週の血清型別報告数



本年の血清型別感染状況の累積報告数

